

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これまでの歩みの中で培われた「柏原東高校の教育力」と「柏原地域連携型中高一貫教育」を中心とした「地域連携による教育力」の相互補完・活性化による教育活動を展開することで地域や社会に貢献できる人材を育成し、生徒・保護者・地域から愛され、信頼される学校をめざす。

- 1 自らの夢と志を育み、自立できる生徒を育成する学校
- 2 規範意識の醸成・自他敬愛の精神の涵養を通じて、豊かな人間性を育む学校
- 3 地域とともに歩み、地域に愛される学校

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態に応じた「わかる授業」を展開する。また、教員相互の公開授業・授業見学や生徒による授業アンケート等を活用し「授業力の向上」を図る。さらに ICT を活用した授業改善についても研究を進める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業理解度（平成 26 年度 48%）を毎年 2%以上引き上げ、平成 29 年度には 55%以上にする。

(2) 多様な進路実現のためのさらなる学力向上に取り組む。

ア 「B-up タイム」(Brush up タイム)を全学年で展開し、「基礎知識の学び直し」を行うことで「学習の姿勢づくり」および就職希望者に必要とされる「基礎力の習得」を図る。

※年度末の就職内定率、毎年 100%をめざす。(H26 年度 100%)

イ 個々の目標や能力に応じた進学講習体制を構築し、生徒の進路実現に取り組む。

※生徒の進路希望に応じた講習カリキュラム・教材を作成し、組織的・計画的な講習を週 3 回実施することにより、希望に応じた大学への合格をめざす。

ウ 放課後・土曜日を利用した「特別進学コース」を開設し、3 年間で 4 年間分の学習量を確保することにより、さらに難易度の高い大学進学をめざす生徒を育てる。

※平成 25 年度からの継続で地元大阪教育大学や難関私立大学をめざす生徒を育て、平成 27 年度には合格を、28 年度以降も継続して合格をめざす。

2 豊かな人間性を持つ生徒の育成

(1) 生徒の規範意識を醸成するとともに個々の生徒への支援体制を構築する。

ア 「熱く、厳しく、暖かく」をモットーに教職員全員体制で取り組んできた「厳しく寄り添う」生徒指導を傾聴の姿勢をもって実践していく。また、支援が必要な生徒に対して適切な支援・指導が行うことができるよう、教育相談体制を整備する。

※年間遅刻者総数 1,000 人以下 (H25 年度 1,026 人) に復元し、平成 29 年度には 800 人台をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する肯定度 (H26 年度 86%) を毎年 2%引き上げ、平成 29 年度には 90%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する満足度 (H26 年度 48%) を毎年 2%以上引き上げ、平成 29 年度には 55%以上にする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが、積極的・主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動を展開し集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目における肯定率 (平成 26 年度 55%) を毎年 2%以上引き上げ、平成 29 年度には 60%以上にする。

※部活動加入率 (平成 26 年度 40%) を毎年 3%以上引き上げ、平成 29 年度 50%をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事の満足度 (H26 年度 61%) を毎年 3%以上引き上げ、平成 29 年度には 70%以上にする。

イ 保健体育の「少人数展開授業」の実施により、安全配慮や協調性・責任感などを醸成するとともに、その集大成ともいえる体育祭での「男子組体操・えっさっさ」、「女子マスケーム・ダンス」を通じて達成感を味わい人間的な成長を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における人間成長度 (H26 年度 70%) を毎年 2%以上引き上げ、平成 29 年度には 75%以上にする。

(3) 自己発見・自己実現に向けたキャリア教育、人権教育の充実を図るとともに国際理解教育を推進する。

ア 「総合的な学習の時間」と「LHR」等を連携させ、3 年間を見通したキャリア教育の指導計画を確立させる。また、地域や外部人材等を積極的に活用し、地域のニーズも取り入れながら、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。

※年度末の就職内定率を、毎年 100%をめざす (H26 年度 100%)。

イ 「総合的な学習の時間」と「LHR」等を連携させ、3 年間を見通した人権教育の指導計画を確立させる。また、人権教育推進委員会の活性化を図り、個々の生徒情報について学年および人権教育推進委員会で共有できる体制を構築する。

※生徒向け学校教育自己診断における積極的な人権学習の肯定率 (H26 年度 60%) を毎年 3%以上引き上げ、平成 29 年度 70%をめざす。

ウ 国際理解教育を推進するため、生徒の海外研修・留学および海外留学生の受け入れなどを検討する国際交流委員会を設置し、実現のための検討を行う。

※H27 年度中に委員会を立ち上げ、H30 年度の実現をめざす。

3 地域連携の確立と伸張

(1) 柏原地域連携型中高一貫教育体制の確立とさらなる進展を図る。

ア 連携授業 (書写・書道) の定着を図るとともに、生徒会活動や部活動および授業見学等を通じ生徒交流・職員交流を進展させる。

※中学校生徒向け授業アンケートにおける満足度 (H26 年度 90%) を毎年 1%以上引き上げ、平成 29 年度には 93%にする。

イ 新学習指導要領を踏まえ、学校設定科目などで連携型中高一貫教育に応じたカリキュラムについて研究を進める。

※平成 26 年度に立ち上げた P T を継続し、平成 29 年度には「特別進学コース」も合わせ、連携型中高一貫教育に応じたカリキュラムを編成する。

(2) 地元大学 (大阪教育大学) との高大連携による教育力の向上を図るとともに外部への情報発信力を強化する。

ア 大学生や生徒間の交流の機会を拡大し、互いの資源を有効活用することにより相互メリット (Win-Win) のある連携を構築する。

※「特別進学コース」と連携・協働し、大阪教育大をめざす生徒を育成。平成 27 年度には合格、28 年度以降も継続合格をめざす。

イ HP や学校説明会・学校訪問などあらゆる機会を活用し、本校の教育活動の情報発信を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
*アンケート回収率について 平成 26 年度 (生徒 100% : 保護者 62%) → 平成 27 年度 (生徒 100% : 保護者 83%) と保護者の回収率が大幅に上昇している (21 ポイントアップ)。	第 1 回【平成 27 年 6 月 27 日 (土) 13:30~15:00】 (1) 平成 26 年度各取組み報告

府立柏原東高等学校

<以下の数値(%)は肯定的回答の割合 ○…上昇又は維持、△…減少>

①学校への満足度 H26→H27

- ・入学してよかった…
 <生徒> 1年 61%→59%△ 2年 58%→55%△ 3年 62%→60%△
- ・入学させてよかった…
 <保護者> 1年 91%→87%△ 2年 85%→87%○ 3年 88%→86%△
- ・この1年で人間的に成長した…
 <生徒> 70%→71%○ <保護者> 83%→81%△

3学年ともに生徒の学校への満足度が若干下降している。また、保護者の満足度においても、同じ傾向を示している。厳しくも寄り添う生徒指導の必要性を丁寧に説明しながら、生徒及び保護者に対して本校教育への理解を求める活動が必要と考えている。

②授業力 H26→H27

- ・授業はわかりやすい…<生徒> 48%→49%○
 「わかりやすい授業が多い」と感じる生徒が着実に増加してきている。「B-up タイム」で授業に集中する力が育まれ、授業参加意識が高まってきていることも一因と考えられる。今後、校内研修等を活用し、「わかる授業」を目標に、全教員がさらなる授業改善に全力を尽くす努力を続けていく。

③課外活動等学校生活の充実度 H26→H27

- ・学校は楽しい…<生徒> 67%→65%△ <保護者> 75%→67%△
 - ・学校行事は楽しい…<生徒> 61%→62%○ <保護者> 79%→75%△
 - ・自分は(子どもは)学校で頑張っている…
 <生徒> 76%→78%○ <保護者> 95%→92%△
 - ・部活動に力を入れている…
 <生徒> 55%→50%△ <保護者> 57%→56%△
- 上記項目については、わずかながら減少している。次年度に向けて行事等の活動内容の見直しが必要である。
- 生徒会活動では、運動部を中心に活動が盛んになってきている。(H26→H27:部活動加入率 40%→41%○) 今後さらに学習、部活動ともに生徒が充実して学校生活を送れる組織づくりを考えていく必要がある。

④生徒の人権や安全確保 H26→H27

- 学校は生徒の安全に十分配慮している…
 <生徒> 66%→66%○ <保護者> 82%→78%△
- 学校の生徒指導方針に納得できる…
 <生徒> 40%→42%○ <保護者> 69%→67%△
- 学校は生徒の健康状態に配慮している…
 <生徒> 43%→40%△ <保護者> 66%→68%○
- 学校は悩みや相談に親身に応じている…
 <生徒> 48%→46%△ <保護者> 66%→64%△
- 信頼できる先生が多い…
 <生徒> 43%→44%○ <保護者> 53%→53%○
- 生命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い…
 <生徒> 60%→63%○ <保護者> 82%→79%△
- ・毎日の早朝登校指導(遅刻指導)から始まり、日々の生徒指導について、生徒が理解できるような指導、説明を全教員が共通してできるような体制づくりが求められている。3学年が系統だて学習できる「柏原東人権マップ」(H27作成)を活用し、生徒の人権意識、道徳観等指導内容の精査が必要である。

⑤情報提供 H26→H27

- ・学校は進路情報を十分に提供している…<生徒> 全体 64%→63%△
 1年 61%→58%△ 2年 58%→61%○ 3年 73%→70%△
 - ・学校は子どもの進路について適切に指導している…
 <保護者> 69%→71%○
 - ・学校はさまざまな情報を提供する努力をしている…
 <保護者> 68%→67%△
- 3学年をとおした進路指導を計画・実施している中、生徒の多様な進路希望を実現する取組みが徐々に結果としてつながってきていると考える。各学年別に進路 HR の他、個別の進路実現に向けて適切な情報提供を発信する努力が求められる。保護者向け「柏原東メールマガジン」の内容を今後も拡充させていく。

①中高連携事業について

- ・柏原市立6中学校1年生全員を対象に連携授業。平成27年1月中旬「リビエール・ホール」において、中高合同「書写・書道」展を開催。
- ・運動部を中心に部活動合同練習等も活発に行われた。
- ・柏原市立7中学校進路指導研究会との連携協議会等の実施。

②大阪教育大学との連携事業について

- ・学校見学(フィールド・ワーク)、教育実習の受け入れ、学校教育サポート等連携事業を継続。

③B-up タイム及び特別進学コースについて

- ・B-up タイム
 平成26年度も前年度の実績を検証し、より生徒の実態にあった学習内容の提供ができた。平成27度も引き続きさらなる取組みを実践する。
- ・特別進学コース
 平成27年度末の受験結果を期待。H27年度3学年が揃いスタートしている。

④若手研修について

- ・授業力向上のための全体研修を「メリハリのある授業」「生徒がやる気になる授業」等のテーマ決めて実施。また、教育相談、保護者対応等スクールカウンセラーを活用した研修も実施。

(2)平成27年度学校状況について

- ・B-up タイム、特別進学コース等、学校全体の取組みの内容が高い。また、生徒指導において年間の遅刻者数の少なさ等、先生と生徒が真剣に向き合っている日々の努力の積み重ねが各所に見えている。

(3)平成27年度学校経営計画について

- ・昨年度からの計画に加えて、中期目標に「傾聴」「教育相談体制の整備」を追加した。本年度から教育相談委員会のメンバー構成を改善し、「これまでの生徒指導方針のベースを継承しながら高校生活支援カード及びスクールカウンセラー事業の活用」を推進する。連携型中高一貫教育については、教員間交流を活性化させたい。また、大教大との新たな連携事業にも積極的に協力する体制で臨む。

(4)平成27年度主な取組みについて

- ①第1回安全で安心な学校生活を過ごすためにアンケート実施について
- ②授業アンケートについて
- ③大阪教育大学との連携事業について

(5)各委員からの意見・質問

- ・B-up や特進コース等の取組みは今後も継承していただき、今後の結果に期待したいと思っている。
- ・卒業生としてもできる限り協力したい。
- ・先生方もいろいろな意見を受けて成長していただきたい。

第2回【平成27年11月16日(月)13:20～15:00】

(1)平成27年度主な取組みについて

- ①中高連携授業について
- ②授業アンケートについて
- ③大阪教育大学との連携授業について
 - ・学校見学(教養学科フィールドワーク)
 - ・学校サポート活動
 - ・教育実習の受け入れ
 - ・大阪教育大学大学院連合教職実践研究科生「学校実習」の受け入れ
 - ・府立高校教職コンソーシアムへの参加

④若手研修について

(2)いじめ対策委員会・人権教育推進委員会より

(3)中高連携事業について

(4)各委員からの意見・質問

- ・5時間目の授業態度と、B-upの時の授業態度が全く違っていると感じました。1年生、2年生と比べて、3年生はまじめに取り組んでいると思いました。クラスごとに雰囲気が違う。見ていて楽しかったです。よく頑張っているなど感じました。
- ・B-upは、目標意識、学習を自分でコントロールできるので、ある面分かりやすく、やりやすい側面があるのかもしれませんが、システムチックなやり方が見事に定着しているといえます。
- ・1・2・3年生で変化が見られました。授業とは違って、B-upは自分だけに与えられた課題であるので自ら進んで出来るのかと思います。2年生になると、次年度は進学・就職が見えてきて、まじめに授業を受けるようになるのか、逆に1年生はまだ明確なビジョンが見えないために少し授業を軽んじてしまう傾向にあるのかなと感じます。
- ・私たちが高校生のころ寝ている子はいましたが、しゃべっている子はいなかった。他の子の授業を受けたいと思っている権利を妨害している。生徒の義務としては、

府立柏原東高等学校

「静かに聞く」というべきなのに、生徒が自分の権利ばかりを主張して教師の話が前へ進まない。人権に対する義務、権利に対する義務を考えていかないと解決しないとします。

- ・中学校現場はもっと難しいです。高校生になるとしっかりやっているな、というのが素直な感想です。また、学校へ戻って中学校時代に積み残した課題を改めて考えていきたいとします。子どもたちをその気にさせるというのは非常に難しいです。少人数の学校では教員が各教科1名しかおらず、先輩に教えてもらうということができません。大きな学校と連携を進め研修していければと思います。また機会がありましたら、授業見学をさせていただきご指導いただければと思います。

第3回【平成28年2月12日(金)13:30~15:00】

(1) 報告

①平成27年度学校教育自己診断結果について

- ・保護者アンケートの回収率は60パーセント台から80パーセント台へと上昇。「信頼のできる先生がいる」「授業は分かりやすい」について肯定的意見増。今後は、「学校行事に楽しく参加できている」について肯定意見増に向けて取り組む。

②平成27年度授業アンケートについて

- ・どの教科においても前回は上回る結果となり、教員が真摯に授業に向き合っていることが分かる。教員が相互の授業見学や、授業改善の研修を行い、今後は、ICT関係も取り入れながらさらなる授業改善への取り組みを進めていきたい。

(2) 平成27年度学校評価(案)について

- ・『授業理解度・分かりやすい授業』が1ポイント上昇。『授業アンケートの活用』をテーマに授業力向上研究を目的とした班別協議を行った効果であろう。これまでのB-upの取り組みの結果、春に行った『基礎力診断テスト』では、どの教科・学年でも効果が上がった。特別進学コースに現在3学年計35名が在籍。3年生1名は関西外国語大学、近畿大学にも合格。今後は、能力別授業を検討していきたい。
- ・スクールカウンセラー(臨床心理士)の教育相談も3年を経過、教育相談委員会においても情報交換を行い、学校組織として機能してきている。
- ・今年度は、遅刻の減少と同時に欠席者も少なくなり、生徒の意識付けが定着した。
- ・人権教育をさらに推進させるために『柏原東人権マップ』を作成した。
- ・就職内定率については、本年度も引き続き100%の達成が予想される。
- ・柏原市内の7中学校と、書写の連携授業、大阪教育大学との連携の機会を多く持つことが出来た。本校生徒のキャリアデザインとして有効であると思われる。

(3) 平成28年度学校経営計画(案)について

- ・今年度の重点目標『分かる授業を目指した授業改善の取り組み』で、教育ツールの活用による授業の質の向上を追記した。ICT教育として、一室でもプロジェクターを常設する教室を配置し、授業の可能性を広げたいと考えている。
- ・今までの生徒指導を継承しながらも、生徒の実態に則した指導が必要であることを含めた。外部関係機関等と生徒指導における連携を密にするという表現を追記。

(4) 平成27年度教育活動の取組み報告

①校内教員研修について

- ・「生徒がどこで分からなくなっているかを探す」をテーマに見学・意見交換を行った。また、授業アンケートの活用を論議し、生徒が授業をどう捕らえているのかを分析し、アンケート結果を理解できるようにすることを今後の目標とした。アンケート評価が高い先生の授業を見学したいという意見もある。
- ・教員経験年数の少ない先生からは、生徒指導の難しさを訴える声もあり、保護者対応、生徒対応の研修を行った。生徒の実態に合せた指導方法を考える時期になってきている。指導内容、方法は変えなくても訴える方法を考える研修も行いたい。

(5) 各委員からの意見・質問

- ・評価育成システムの中では、『授業力の向上』は大きな柱になっている。『分かりやすい授業』を目標に掲げ個人でも努力されていると思うが、大人が良いと思って進めていることも生徒にとってはあまり良くないと思っていることがある。勉強だけでなく、人間としてどれだけスキルアップするが一番。先生方がICTを進めると、生徒が興味深く授業を受ける一因になるであろう。国語のアンケート結果が悪いということだが、これは小・中学校の頃からずっと国語が好きになり、読書が好きであれば、理解力は必然的に上がると思う。理解力がなく、問題の意味さえ分からない生徒がいるのではないか。これは活字を読む機会が減ってきていて、国語に対する苦手意識があり、国語が出来なければ、どの教科も出来ないし、逆に国語が出来れば他の教科もできるようになる。大人の言い方では、生徒が分からないということも多々あり、生徒が質問しやすい環境を作ることが大切である。
- ・柏原東高校では何事も丁寧にされていると感じた。また、このことを中学校に持って帰って学校に対する理解を広められたことが良かった点。柏原東でがんばっている生徒が多くなり、保護者にもそれが伝わっていることは素晴らしい。そのような達成感・充実感を持たせることが柏原東の良いところであり、敬服するところだ。「きちんと叱ってくれる」というのは子どもたちからの最高の褒め言葉だと思う。

府立柏原東高等学校

	信念を持って頑張っていたきたい。 ・学校教育自己診断のアンケート項目「生徒が悩みを相談できる相手がいる」という項目について、肯定率が50パーセントに満たないのが気になる。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「わかる授業」をめざした授業改善への取組み ア 習熟度別・少人数展開授業の定着 イ 公開授業・授業見学、授業アンケートを活用した授業改善の推進 (2)さらなる学力向上への取組み ウ 「B-upタイム」の実施による「基礎力の向上」 エ 「特別進学コース」の継続実施により、難易度の高い大学進学をめざす生徒の育成	ア・生徒一人ひとりの学力を伸ばすため、第1学年における「数学」・「英語」の習熟度別・少人数展開授業の定着を図る。 ・生徒の学習について、実態把握を行い、一人ひとりに応じた授業展開を実践する。 イ・授業公開週間(9～11月)において、テーマを設定し、8人1グループの教員チームによる相互授業見学・評価を実施する。 ・生徒による授業アンケート(年2回)結果を基に、課題把握と分析を実施し授業改善を進める。 ウ・全学年全生徒に対し、週2回(月・木曜日/6限目15分)、英・数・国(3年:一般教養)の3教科実施する。また、基礎力診断テストによる分析を指導に反映させる。 エ・高い進学意欲を持った生徒に対し、2・3年/週4回(月・火・水・金)7限・8限、1年/週3回(火・水・金)、7限目の特別授業(60分)および土曜・長期休業中特別授業(1コマ90分)を実施する。(英・数・国・理・社) ・「特別進学コース」のカリキュラムへの編成を検討する。 ・空き教室を利用し、自習室を設置する。	ア・生徒による授業アンケート、両教科の授業進捗・難易度の肯定率、数学67%(平成26年度65%)、英語83%(平成26年度81%) イ・生徒向け学校教育自己診断結果における授業理解度50%(平成26年度48%) ウ・生徒向け学校教育自己診断における授業理解度50%(平成26年度48%) エ・定期考査による定着度チェック ・年3回の実力診断テスト(外部)による到達度チェック ・H29年度カリキュラム編成に向けた素案の策定	ア・数学、英語における習熟度別・少人数展開授業は定着することができ、生徒の進捗に応じた授業を実施した。習熟度別授業における生徒による授業アンケートの肯定率、数学66%、英語81%(△)と目標を達成できず。 イ・9グループに分かれて授業見学を実施。その後、学校全体で「授業アンケートの活用」をテーマに討議し、様々な意見交換を行えた。学校教育自己診断における授業理解度49%(H26:48%)と微増であった。(△) ウ・B-upタイムに臨む生徒の姿勢は素晴らしいものがあり、基礎力診断テスト結果で前年度よりランクアップ。ただ、授業理解度は49%であり、目標にはわずかに届かず。(△) エ・現在1年生13名、2年生10名、3年生5名が特進コース生として努力を続けている。今年度3年生は特進コース第1期生であり、関西外国語大学、近畿大学他に合格。(◎) ・高い進学意欲を持った生徒のさらなる学力向上のための素案は策定できた(○)
2 豊かな人間性を持つ生徒の育成	(1)「厳しく寄り添う」生徒指導の実践と継続 ア 個に応じた支援体制の構築と規範意識の醸成 (2)特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と集団への帰属意識の向上 イ 部活動の活性化に向けた取組みの推進 (3)総合的なキャリア教育・人権教育の充実および国際理解教育推進への取組み ウ 3年間を見通したキャリア教育指導計画・人権教育指導計画の確立と実践 エ 国際理解教育推進のための校内組織の整備	ア・これまでの生徒指導方針のベースを継承しながら、高校生活支援カードおよび府のSC事業を活用し、個々の生徒を支援できる教育相談体制を整備する。 ・全教員による登下校指導を継続実施し、生徒の安全確保、遅刻者数の更なる減少に努める。 イ・部活動体験入部期間の延長と複数化を図る。(春・秋の2回実施) ・中高連携を活用した部活動交流を推進する。(技術指導・合同練習) ウ・キャリア教育計画に基づいた体系的なキャリア教育の実施により、自ら主体的に進路決定できる生徒を育てる。 ・人権教育指導計画やいじめ防止基本方針に基づき、人権教育推進委員会・教育相談委員会を中心に3年間を系統立てた人権教育を推進する。 エ・国際交流委員会を立ち上げ、生徒の海外研修・留学および海外留学生の受け入れなどの制度を検討する。	ア・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度50%(平成26年度48%) ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率88%(平成26年度86%) ・年間遅刻者総数900人台(平成26年度1,026人) イ・生徒向け学校教育自己診断の部活動に関する項目における肯定率57%(平成26年度55%) ・部活動加入率43%(平成26年度40%) ウ・年度末の就職内定率、毎年100%(H26年度100%) ・生徒向け学校教育自己診断における積極的な人権学習の肯定率63%(H26年度60%) エ・海外研修制度等の工程表の策定	ア・SC事業導入3年が経過。教職員の教育相談に対する考え方も定着し、校内体制として確立された。また、今年度から各学年主任を保健部所属とし、「高校生活支援カード」の活用とともに、情報交換のスピード化を果たした。今後も教育相談体制の拡充に向けた取組みを継続する。 ・教育相談における満足度46%(△)、規範意識に関する項目における肯定率87%(○)、年間遅刻者総数977名(◎) イ・在校生には春秋2回、体験入部期間を実施。中高連携として合同練習をバドミントン部、陸上部、男子バスケットボール部で実施。部活動加入率はわずかに増加(40%→41%(△))したが、部活動に関する項目における肯定率50%(△)と目標には届かなかった。 ウ・3年間を系統立てた人権教育と継承できる指導を目的とした「柏東人権マップ」は作成できた。今後は、さらなる人権意識、道徳観等の醸成に努めていく。(○) ・年度末の就職内定率100%(◎) ・積極的な人権学習の肯定率63%(◎) エ・国際交流検討会については今年度開催できず、次年度中に本校の国際交流教育の骨子を策定する。(△)

府立柏原東高等学校

<p>3 地域連携の確立と伸張</p>	<p>(1) 連携型中高一貫教育体制の確立と進展 ア 連携授業の定着と進展 イ 部活動や体験講座を通じた生徒交流の拡充 ウ 連携型中高一貫教育に応じたカリキュラム編成の研究</p> <p>(2) 地元大学（大阪教育大）との連携づくりを進めるとともに外部への情報発信力を強化する。 エ 学生・生徒の交流の機会を拡げる。 オ アドミッションポリシーを踏まえた中学校訪問、学校説明会の更なる充実と改善を図る。</p>	<p>ア・書写・書道の連携授業の定着・充実を進める。 ・柏原市内6中学校第1学年全クラス年間5回の連携授業を実施するとともに書道体験講座（秋期）や中高連携書写・書道展を開催する。 イ・秋期に体験講座5教科実施（理科・家庭科・書道・美術・情報）するとともに部活動交流（技術指導・合同練習）を進める。 ウ・連携型中高一貫教育カリキュラム研究PT（教頭・首席・教務主任）において、適切なカリキュラム編成について研究を進める。 エ・大阪教育大学教養科学生の学校見学および教育実習生の受け入れ、部活動・「特進コース」への授業補助や大学での模擬授業など通じ、交流を拡大する。 オ・中学訪問、学校説明会にかかるマーケティングチームを編成、現状など状況分析の上、本校のアドミッションポリシー（求める生徒像）が中学生、保護者に明確に伝わるよう積極的・効果的（選択・集中）な情報発信の強化に努める。 ・活発な学校HPの情報更新および「柏原東メールマガジン」による効果的な情報発信に努める。</p>	<p>ア・連携授業アンケート（中学生対象）による満足度91%以上（平成26年度90%） ・体験講座における満足度100%（平成26年度100%） イ・体験講座における満足度100%（平成26年度100%） ウ・平成29年度カリキュラム編成に向け、「特進コース」も合わせた素案の策定 エ・教養科学生学校見学、年2回（平成26年度2回） ・特進コースへの授業補助学生拡大（H26年度 数学8名） ・部活動交流（技術指導・合同練習）年1回以上 オ・学校説明会 年3回・参加者400人以上（平成26年度3回353人） ・平成28年度入試志願倍率1.0倍以上（H27年度0.93倍） ・保護者向けアンケートによる学校の情報発信肯定率75%以上（平成26年度68%）</p>	<p>ア・柏原市立7中学校に対し年間3～5回の連携授業（書写・書道）を実施でき、中学校の評価も高い。 ・1月に柏原市リビエールホールで中高連携書写・書道展を開催した。 ・連携授業アンケートによる満足度は92.6%（◎） ・11月の体験講座には中学生83名（H26：54名）が参加。ただ、体験講座の満足度は97%であった。（△） イ・11月14日に「体験学習祭」として5教科実施（理科・家庭科・書道・美術・情報）。参加生徒83名（H26年度54名）体験講座における満足度全体97%（△）書道100%（◎） ウ・特進コースのカリキュラム編成については実現性の高い「レクシクラス」案は策定できた。今後も継続して研究していく。（○） エ・教育実習生2名（書道）受け入れ、教養科学生学校見学6月に2回実施（合計34名参加）。「特進コース」に数理科学生3名ボランティアで2年生数学を中心に授業補助。11月実施の「大教大キャンパスガイド」に特進コース生徒21名が参加。また、連合教職大学院生を1名、学校実習（6月：2週間、11月：2週間）を受け入れた。（○） オ・学校説明会・オープンスクールを年3回実施（10月・12月・1月）。ただ、参加者254人（H26：353名）と大幅に減少（△）。次年度に向けて分析し、広報活動を再考する。 ・9つのマーケティングチーム結成、エリアごとに戦略をもち、10月～11月に120校訪問実施済み。1月下旬以降50校を再訪問する。平成28年度入試志願倍率0.86（△） ・HPの更新を適宜行い、「柏原東メールマガジン」も効果的な発信ができたと考える。ただ、保護者向けアンケートによる学校の情報発信肯定率67%と前年度を下回った。保護者向けの周知方法を再考する。（△）</p>
-------------------------	---	--	---	--